

# 300<sup>#</sup>の ゴキトラスト

都内で結婚し、一人息子に恵まれた。元気でやんちゃ。広場では、他の子とおもちゃの取り合いになることも。すでに2018年1月、上越市に「かません」と周りに翻っては移り住んだ。自然の中で子育てを始めての子育てで、てをしたい。渡邊さん自身も東京・四谷で生まれ育った。幼い頃の遊び場は「本当に小さな公園」。夜はアップクの歌声を聞いて眠った。それが普通。別に嫌じゃなかった」

一方、健太郎君は今、上越市「森のようちえん」で毎日、畑や川に行ったりで、山に生えた山菜を使って自分たちで食事を作ったり。森の中で健やかに成長する。

あなにとりここに

< 3 >

## 本物の自然が親子育む

ずっと住んでいると気付かないのかな

働いていた「てくてく」を働  
きつけは、都内の自然の  
めぐれた。デブツクで誕  
るで子育てするのも良いか  
生した「森のようちえん」活  
た。自然が残る公園でのび  
動の一環で、子どもたちを自  
然の中で育む。  
び遊ぶ健太郎君。「自然の中  
の方が合ってる」。そう感じ  
た。  
健太郎君の幼稚園を選ぶ  
ず接してくれるアップクや保  
護者、全てが魅力的だった。  
時、姉がかつて保育士として  
育子子どもたち、壁をつくり  
実あるよ。子どもたちが駆  
全が配慮された「つくられた  
自然」。ここは違う。「本物の  
自然の中に自分たちがいる  
新生児の訪問相談などに取り  
組む。たくさん親子に会う  
保護者同士つながりも深  
い。毎日、保護者の一人が当  
番で一緒に園の活動に参加す  
る。アップクつくりや田  
話だ。そのたびに思う。「こ  
んなの整備も保護者が協力し  
た。親がみんな子育てして  
いる感じ。山菜やキノコの実も子  
どもと一緒に食べる。そんな  
経験ができて私も楽しい」  
東京は「迷惑を掛けない」  
が暗黙のルールだった。隣近  
さみ)



「森のようちえん 健太郎君。」「恵まれた自然や地域の温かいまなざしがある。親子で成長できる」＝上越市(長期企画取材班・佐藤将志撮影)

は、大人に情緒の秘密基地。所どの会話は「子どもがうるさい」と音價が来た時くらいだ。  
健太郎君は「てくてく」で上越では回覧板が回ってき  
過すうちに、思い通り行か  
ない時でも気持ち切り替る。最初は戸惑ったが、慣れ  
え、相手を認めることができ  
長したと感じる。  
渡邊さんも気付かされたこ  
域の人々がいることがうれし  
どが多い。東京にあるのは安  
い。  
今年4月から、開業助産師  
として上越市から委託された  
自然の中に自分たちがいる  
新生児の訪問相談などに取り  
組む。たくさん親子に会う  
保護者同士つながりも深  
い。毎日、保護者の一人が当  
番で一緒に園の活動に参加す  
る。アップクつくりや田  
話だ。そのたびに思う。「こ  
んなの整備も保護者が協力し  
た。親がみんな子育てして  
いる感じ。山菜やキノコの実も子  
どもと一緒に食べる。そんな  
経験ができて私も楽しい」  
東京は「迷惑を掛けない」  
が暗黙のルールだった。隣近  
さみ)

「親がみんな子育てして  
いる感じ。山菜やキノコの実も子  
どもと一緒に食べる。そんな  
経験ができて私も楽しい」  
東京は「迷惑を掛けない」  
が暗黙のルールだった。隣近  
さみ)

（長期企画取材班・木重あ  
さみ）